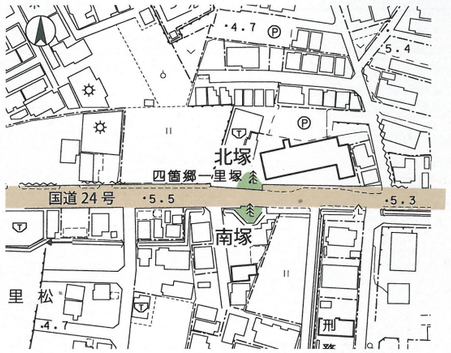
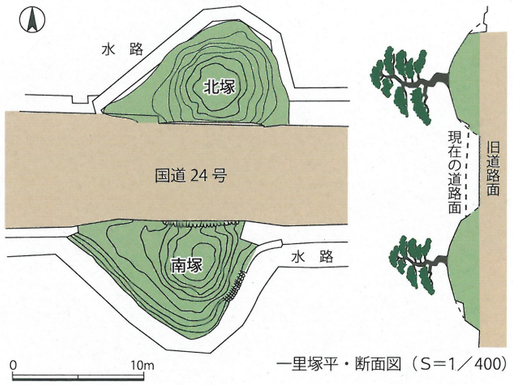
四箇郷一里塚とは

四箇郷一里塚は和歌山市新在家にある江戸時代の交通遺跡です。一里塚は京橋を出発点に一里（約4km）ごとに旅行者に移動距離を示す目印として街道の両脇につくられました。四箇郷一里塚は京橋を出発して最初に通る一里塚です。現在も道の両側に良好に残っています。そのため、昭和15年（1940）に国の史跡に指定されました。



一里塚の位置（S＝1/3000）



一里塚平・断面図（S＝1／400）

一里塚の大きさと道幅

四箇郷一里塚の大きさは、北塚・南塚とも直径約10mあり、高さは北塚が少し大きく2.5m、南塚が2.2mあります。国道24号をつくる時に、70cmほど土で埋めているため、江戸時代には今よりもっと大きな塚でした。また、一里塚の周辺の江戸時代の道幅は6～7m程で、城下町周辺が12mもあったこととくらべると、お城から離れると道幅も狭くなっていたようです。

参勤交代と一里塚

「徳川斉順帰国行列図」和歌山県立博物館蔵

江戸時代におこなわれていた参勤交代は、原則として一年おきに全国の大名を江戸に住まわせる制度です。紀州藩は、御三家と呼ばれた特別な藩でした。しかし、初代頼宣が49年間の間に20回、第2代光貞も38年間に19回、江戸と和歌山を往復しており、他の藩と同様に参勤交代をおこなっていました。そのため、和歌山でも街道が整備され、八軒屋、山口などの宿場も発達しました。

藩主が参勤交代で江戸に旅立つ時には、家来たちは四箇郷の一里塚で一行を見送り、帰国する時もここで出迎えたとされており、四箇郷一里塚は参勤交代時の目印としても使用されていました。

交通案内
バス　南海和歌山市駅より橋本駅前行き（約 16 分）→四ケ郷下車すぐ
電車　JR 紀伊中ノ島駅下車→徒歩 15 分

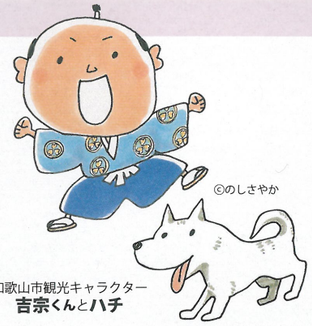
文化庁 AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS

このリーフレットは平成 25 年度「地域の特性を活かした史跡等総合活用支援推進事業」の補助金を受けて作成しています。

和歌山市教育委員会 文化振興課　〒640-8511　和歌山市七番丁23番地
TEL：073-435-1194　FAX：073-435-1294

平成26年 3月発行
（2014年）

国指定史跡 四箇郷一里塚



和歌山市観光キャラクター
吉宗くんとハチ

現代の四箇郷一里塚
（南から）

第 11 代藩主徳川斉順の帰国の様子

昭和 40 年頃の四箇郷一里塚
（西から）

四箇郷一里塚の沿革

昭和15年（1940）**国の史跡に指定**
昭和59年（1984）**南塚の松の植え替え**
昭和28年（1953）**和歌山市が管理団体になる**
平成5年（1993）**北・南塚の松の植え替え**
昭和54年（1979）**北塚の松の植え替え**

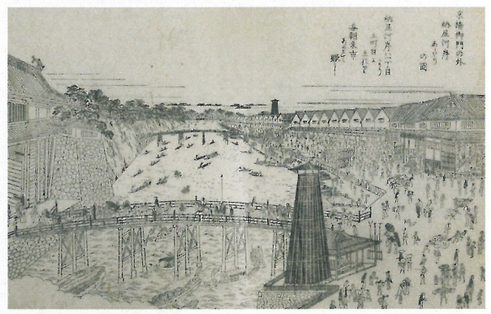
江戸時代の街道

和歌山市内の江戸時代の街道は、元和５年（1619）に初代紀州藩主の徳川頼宣が入国してから整備されました。四箇郷一里塚はその時につくられたものです。

① 京　橋

写真・絵図の左側が和歌山城内となっており、一般の人はその中には入ることができませんでした。そのため、京橋が街道の出発点となりました。

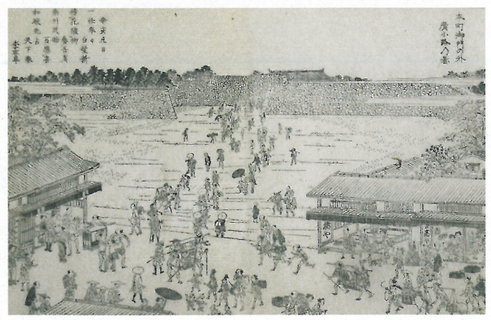
京橋（東から）


京橋御門と京橋

② 本町御門・嘉家作丁

本町には城下町への入り口である本町御門がありました。また、現在の嘉家作丁には本町御門周辺の面影が感じられる町並みが残っています。

嘉家作丁（北西から）


本町御門

街道と紀伊国名所図会

©のしさやか

③ 地蔵の辻

現在の地蔵の辻の交差点は古くから人通りが多い場所でした。交差点の角には地蔵堂があったため、地蔵の辻と呼ばれるようになったようです。

地蔵尊

地蔵の辻

④ 田井ノ瀬の渡し

江戸時代には紀ノ川に一本も橋はかかっていませんでした。そのため、紀ノ川を渡るためには舟が必要でした。現在の南田井ノ瀬橋の周辺には対岸に渡るための船着場がありました。

田井ノ瀬の渡し付近（南西から）

紀ノ川の渡し

⑤ 山口御殿

現在の山口小学校とほぼ同じ場所に、藩主が江戸に行くときや江戸からの使者がやってくるときに、休憩所として利用された山口御殿という屋敷がありました。屋敷の周囲には堀がめぐっており、現在も小学校の校庭隅には、当時の堀にかかっていた石橋が残っています。

山口の街道（北から）

山口御殿の石橋

山口御殿と街道

⑥ 雄山峠

山口御殿を出発すると、雄山峠を越えて和泉国にある宿場へ向かいます。雄山峠は、和泉と紀伊との間の峠越えのなかで、古くから重要な交通路でした。

雄山峠と街道（北から）

雄山峠遠景